

《第2回 ICD特別賞受賞者》

ICD Award・特別賞を受賞して

ICDマスターフェロー
 日本大学 名誉教授



齋藤 毅

●抄 録●

私議、1984年ICD会員として認証され、2009～2010、第25代ICD-JP会長に補され活動し、2022年、ICD-Award・特別賞を受賞した。会長職にあつてはICD-JPの国際化の促進を目指して以下の活動を行なった。

- 1) 米軍・厚木基地内の歯科室訪問
- 2) 米三軍・Tri Service/Dental Society of Japanの学術大会に参加
- 3) 近隣アジア地区（韓国、台湾、ミャンマー、中国）のICD支部訪問
- 4) ICD日本部会の法人化を達成

キーワード：日本国の米軍歯科、ICDアジア支部との連携、ICD-JPの法人化

この度、図らずも栄誉ある“ICD-AWARD・特別賞”を受賞する栄誉に浴し、感激しております。私は1984年（昭和59年）にICD日本部会の会員として認証され、本会に入会いたしました。当時は認証式に着用するガウンと角帽は入会者それぞれが用意（購入）したもので、現在も大切に保管しております。

入会以後、各国のICDの会員の活動がICDの会誌の他、歯科医学関連の学術論文に見ることが多く、肩書に“FICD”のタイトルがDDS、PhDの前に記されており、欧米ではICDのフェローが高く評価されております。会員の皆さん、“FICD”の肩書をもって活動してください。

“ICD-AWARD・特別賞”を頂いた機会にICDの国際交流ならびに日本部会における活動の一端を報告し、受賞の責務を果たしたいと思っております。

I. 私のICDフェローとしての活動

1984年、入会以来会員として年次総会（認証式）、

JICD, 2023, Vol. 54, No. 1

年末集会、冬期学会には極力参加して来ましたが、2007年、ICD日本部会の次期会長に推薦され、2009年～2010年の2年間は第25代会長として活動してまいりました。もちろん、会長とは職名ばかりで、前会長の江間誠一郎・マスターから会運営の手ほどきを受けながら、2009年度は、副会長・丹野研、小林義典、事務局長・小板橋誠、財務主事・磯部茂フェローの方々、各事業担当理事の方々にお世話になり、また2010年度は、副会長・磯部茂、佐藤吉則、事務局長・小板橋誠、財務主事・根岸達郎、他・各担当理事の方々、および委員会委員各位の力強い支援をうけて2年間の会務を全うすることができました事、改めて感謝いたしております。

本稿では、2010年度の冬期学会において“ICD-JSの飛翔を考える”のテーマで行なわれた講演を担当し、ICD-JSの将来についての私が行った講演を反芻したいと思います。

私が会長に就任してから、事業運営委員会の中に、総会・認証委員会、年末集会、冬期委員会の3つの部

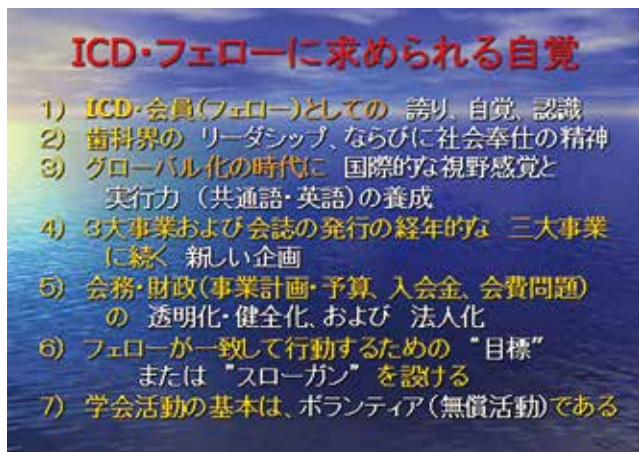


図1 冬期学会講演で掲げたICD-JSの目標

門が包括し、広報編集委員会の他、長期計画委員会、会員支援委員会などを改組しております。その他、国際交流委員会と、フェロー選考委員会などについて江間執行部から改革を引き続き進めてまいりました。

ICD-JSが「ICDの第7支部」として認証されてから50周年を迎え、記念祝賀会が2007年の5月19日、帝国ホテルで開催されました。その式典の経過は、飯高常任理事が担当しました“50周年の記念史”が発刊されておりますので、ご覧いただければと思います。

1) ICD-JSの活動目標と経過

私がICD-JSの25代会長として、2010年度の冬期学会で“ICD-JSの飛翔を考える”のタイトルで行なった講演の概要を、図1に掲げ、また講演内容をICD-JS会誌Vol.40に掲載致しました。

2) 国際理事会の開催

2007年にICD-JSがホスト国となり、当時の日本部会・江間誠一郎会長と国際理事の佐藤吉則、千田彰フェローが中心となり、「パシフィコ横浜・横浜コンチネンタルホテル」で、日本部会の年次総会・認証式と国際理事会を重ねて開催し、成功裏に終了することができました。この成功には“ICD神奈川グループ”の支援によるところが大きかったと記憶しており、私は日本部会・次期会長として各国の国際理事との交流に良い勉強の機会を頂いた。

⇒【「ICD国際理事会の開催と法人化設立を祝う」ICD-JS会誌41(1)】

3) 国際学会・日本部会「ICDJS」の活動目標

周知のように、日本の近代歯科医学の歴史をひもどくと、1860年、米国の歯科医師・イーストレーキ(W.C.Eastlake)先生が横浜で歯科医院を開院し、日本に歯科医術を伝えて以来、日本に歯科医学の研修機関が開設され、次々と歯科医学専門学校が設立された。

1921年、来日した米国の歯科医Dr.Ottfy先生と日本の歯科医・奥村鶴吉先生が、“歯科医師の国際交流と社会への貢献”の重要性を定款に掲げ1930年、ICDを結成した。

⇒【「日本の近代歯科・口中医から歯科医師への展開」ICD-JS会誌50(1)】

日本のICDへの加入は、大戦後の1958年、日本部会が「Section-VII」として認証され、2007年には加入50周年を迎えて、盛大に記念行事が執り行われた。

4) 国際学会ICDとしての会員の自覚

ICDの綱領に「歯科医師の国際交流と社会貢献」が謳われている。しかしICD日本部会は、国際の名(冠・カンムリ)を掲げた国内学会の感が否めない。

これは周囲を海に囲まれた日本の地政学的な理由にも拠るが、世界各国のICDフェローの動向は極東・日本に住む日本のフェローにとっては遠く、英文によるICD機関紙(International college of Dentist)とICD日本部会の国際理事の報告に拠ること以外に乏しいのが実情である。

私は、常日頃、国際学士会・日本部会の、何が“国際学会か”について、国際の文字・冠(カンムリ)について考えており、本会と似た国際交流を掲げる学会として“ピエールフォシャルアカデミー・日本部会PFAJP”があり、ICD・日本部会と同じ悩みを持っている様である。

5) 米軍横田基地訪問と陸海空・三軍歯科医学大会への参加

ICD日本部会では、国内における国際交流の一端として、近隣諸国との交流の他に日本の歯科大学に来て勉学中の外国人留学生を、毎年、年末集会に招待してICDの組織と日本部会への理解を高めることに連なるとして実施している。



図2 横田基地・歯科室訪問のメンバー



図3 横田基地・入口のゲート



図4 58回三軍大会で森山会長を囲んで
左から佐藤、齋藤、和泉、森山、平井のフェロー

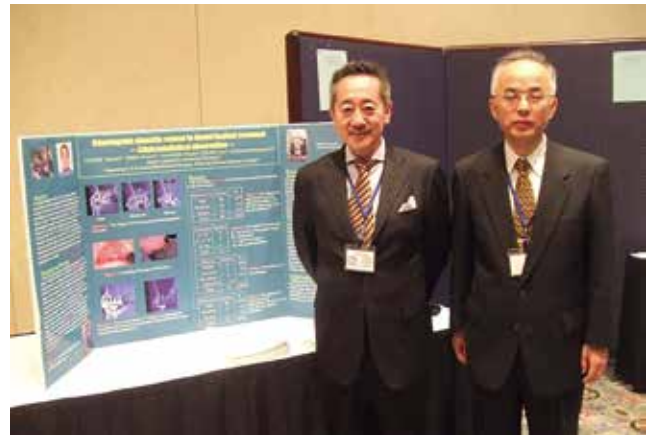


図5 ポスター展示前での一コマ

2006年に送付された「ICD本部規約」には“ICDのオフィシャルランゲージは英語”と規定されている。そこで日本部会のフェローに出来るだけ国際交流の場を設ける必要があると考え、日本部会のフェローが国内に居て、外国の歯科医師との交流を深める方策を模索した。

①日本の国内には数多くの米軍基地があり、基地の中には病院が開設されそれぞれ歯科室が併設されていることが知らされている。また、すでに神奈川歯科大学では、隣接する米軍基地内の歯科室と定期的な交流を行なっている。

そこで国際理事の佐藤吉則および橋本光二の2人をお願いして、立川にある米軍横田基地の歯科診療室とコンタクトを取って頂き、日本部会のフェローに呼びかけ、日本部会のフェロー多数で米軍横田基地の歯科診療室を訪問し、交流を深めることが出来た。

②これを受け、東京「ニュー山王ホテル」で開催された“在日・第58回・米三軍歯科医学大会Tri-Service Dental Conference”に招待されICD日本部会のフェローが多数参加した。この学術大会では本会理事の平井順フェロー・他が学術発表を行なうなどの交流を深めることが出来た。

③また、これを契機に2013年の日本部会の冬期学会（於・東京アメリカンクラブ）に在日米軍横田基地・歯科医療隊・歯科司令官・Colomel T.J.Grimm大佐ならびにDr. T.M.Chamberlan、大尉の歯科医官2名を招聘し、特別講演を行った。⇒この折の講演テーマと講演要旨は【ICD-JS会誌40（1）】に掲載されている。

6) ミャンマー部会との交流

日本部会の国際活動の一環として、森山徳長・国際会長がミャンマー部会の総会・認証式に出席する際



図6 寄付した水道設備・ICDJS寄贈のプレートの前で佐藤吉則・齋藤毅の2人のフェロー



図7 ICD-中国 第1回総会・認証式に参列
中段中央に、ICD国際会長、ICD-中国支部会長、
ICD日本支部会長（齋藤）を囲む

に、日本部会のフェロー数人が随行・参加してミャンマー部会のフェローとの交流に努めた。また、これに先駆けてボランティア活動として、佐藤吉則・国際理事の呼びかけでミャンマー部会を通じて上下水道の環境の劣悪な地区に水道設備の援助を行なっている。特記したいのは、この工事に要した費用は当日参加した日本部会のフェローの寄付によるもので、これが、後に日本部会の懇親会における”ニコニコ募金”として定着した。

⇒【「ICDJSの在り方・方向性」ICD-JS会誌40(1)】

7) アジア近隣諸国との国際交流

将来計画委員会を始め、他の委員会からもICD日本部会の活動が国内での事業（3大事業）に偏り、形骸化していると指摘されている。これを受けてICDの日本部会はアジア近隣諸国、韓国部会、台湾部会、ミャンマー部会との積極的な交流を重ねている。

具体的には、それぞれ各国の認証式・懇親会等の行事に各国の会長、他・数名のフェローが相互訪問を行なう等の国際交流を深めている。

私も、これまでの歴代会長に倣い、韓国部会、台湾部会、ミャンマー部会の総会・認証式に出席して交流の輪を深めてきた。

さらに、2009年には中国の成都で開催されたICD中国部会の第1回認証式に参列し、国際会長Dr.Manfred Seidmann（南アメリカ・チリ）および中国支部・会長（ICD Section XIII-China, President）Dr.Xuedong

Zhou との交流を深めた。また、引き続き開催されたシンポジウムでは、講演を引き受け、私の専門である歯内療法の2演題を講演した。この総会・シンポジウムに参加した中国のフェローの顔ぶれは、制服姿の歯科軍医・大学・国立病院等のスタッフ等で一般開業歯科医は見られなかった（第1回）。

8) 財政の健全化

ICD日本部会の会計収支が年々、逼迫傾向にあり、ICD日本部会の今後の健全な運営が危ぶまれる状態となっていた。これに対し、財務主事・磯部茂（2009年）根岸達郎（2010年）フェローが中心となり、財務の健全化を計り、今日の安定した運営が続けられる基を構築することが出来た。

これにより、本会の法人化への移行もスムーズに行われた事、財務主事に感謝している。

9) ICD日本部会の法人化

懸案のICD日本部会の法人化に取り組み、2009年の会長会議、理事会の議を経て2009年度総会で法人化への議決が得られ、改革推進委員会の準備のもと2009年10月、法務局に申請、2010年2月「一般社団法人・ICD日本部会」の認可を得ることが出来た。これにより本会は任意団体から人格ある団体として社会活動が出来ることになった。

⇒【「ICD国際理事会の開催と法人化設立を祝う」ICD-JS会誌41(1)】

以上、2022年度・ICD-Award特別賞の受賞に感謝し、第25代会長として活動した時期（2009～2010）を反芻して本稿を作成した。

参考文献

- 1) 齋藤 毅：日本の近代歯科医学, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 41巻1号, 2010年.
- 2) 森山徳長：奥村鶴吉とICDの起源, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 41巻1号, 2010年.
- 3) 森山徳長：海外各国のICDの現状, 主に国際的な活動について, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 41巻1号, 2010年.
- 4) Dr. Colomel T. J. Grimm：特別講演「History of Air Force Dental Service」, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 40巻1号, 2009年.
- 5) Dr. Thaddeus M. Chamberlan：特別講演「Understanding the Neuropathic Origin of Pain」, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 40巻1号, 2009年.
- 6) 齋藤 毅：ICD－日本部会の飛翔を考える「ICDJSのこれから, 在り方・方向性について」, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 40巻1号, 2009年.
- 7) 齋藤 毅：ICD国際理事会の開催と法人化設立を祝う, 国際歯科学士会日本部会雑誌, 41巻1号, 2010年.

Memories of ICD-JP Presidency Age, on Time of “ICD Special Award”

Professor Emeritus, Nihon University

Tsuyoshi SAITO, M.I.C.D., Ph.D., D.D.S.

I was appointed to 25th President of ICD-JP (2009 ~ 2010) and recieved “ICD Special Award” on 2022.
I have mainly contributed following four subjects.

- 1) Visited to a dental clinic of US Air Bace (Atsugi)
- 2) Participate in Annual Meeting of Dental Society of U.S. Armed Force in Japan,
- 3) Visited to Asian ICD Section (Korea, Taiwan, Myanmar and China)
- 4) Carried out ICD-JP to “Incorporete Menber” of Japan.

Key words : U.S.Armed Forces, Dental Clinic in Japan, Contact ICD Asian Section,
Incorporeted ICD-JP